

国際規格の動向—国際会議に出席して—

須賀茂雄

ISO/TC61(プラスチック) 韓国・大田(テジョン)国際会議

2017年9月18日～22日に韓国・大田(テジョン)の DAEJEON CONVENTION CENTERにて開催され、当社喜多英雄と片野邦夫と共に出席した。当社に関する審議について報告する。

(1) SC2(機械的性質)/WG2(硬さ及び表面特性)

開催日:2017年9月18日

参加国:中国・チェコ・インド・ドイツ・マレーシア・韓国・イギリス・日本 8ヶ国 23名

日本提案(当社片野がPL<プロジェクトリーダー>)の ISO/CD 20329(すべり摩擦によるアブレイブ摩耗への耐性の求め方)の投票の結果は、反対国無し100%賛成で承認された。今回の会議では、CD投票時に寄せられたコメントが議論され、DISステージに移行することが満場一致で合意された。

(2) SC4(燃焼挙動)/WG8(着火、燃焼の広がり及び燃焼発熱)

開催日:2017年9月21日

参加国:ベルギー・フランス・インド・韓国・イギリス・アメリカ・日本 7ヶ国 20名

・ISO/NP 4589-4(酸素指数による燃焼性の試験方法—高流速試験)

日本提案の本件については、JAXAを中心とした規格開発プロジェクト関係者(当社片野含む)により、規格案の構成やRRT(ラウンドロビント)計画、高流速酸素指数試験装置の開発状況など、プロジェクトの進捗状況についてのプレゼンテーションが行われた。当初規格の構成としては高流速酸素指数試験装置の仕様/試験方法、およびその高流速酸素指数やその他のパラメータにより微小重力環境での酸素指数予測方法を予定していた。しかし、議論の結果、高流速酸素指数の求め方に限定したものとすることで、提案への

支持を得た。日本よりその変更を反映したNP文書を早急に提出することとなった。

なお、当社片野がPLのISO 4589-1,-2,-3(酸素指数による燃焼性の試験方法—通則/常温/高温)については、FDIS投票が2017年2月に終了し、4月にsecond editionとして発行に至っている。

・ISO 9772(小火炎による小試験片の水平燃焼特性の求め方)

インドが、試験炎と試験片の位置関係等の規定の改善案についてプレゼンテーションを行った。WG8はNPとしての提出を支持し、インドからの文書提出を待つこととなった。

(3) SC6(耐候性)/WG2(光暴露)

開催日:2017年9月18日, 19日

参加国:ドイツ・チェコ・フランス・インド・韓国・イギリス・アメリカ・マレーシア・日本 9ヶ国 28名

・ISO 877シリーズ(プラスチック—屋外暴露試験)は、Part3以外は、開発期間が残り少ないため、一旦キャンセルし再度改訂作業をスタートすることになった。Part3はFDIS投票に進むことになった。

・ISO/NP 21488(人工光源+屋外暴露試験)は、試験データについて説明があり、6週間後までに、CD投票を開始する。

・日本提案(当社喜多がPL)のISO/CD 21475(分光老化試験)は、CDのコメントを一部受け入れ、DISを追加する内容について説明があり、DISをPLが用意する。

・ISO/TR 18486(実験室光源のパラメータ比較)は、スコープは変えずに、18ヶ月の期間で改訂作業を開始することになった。

・Florian Feil(ドイツ)委員から耐候試験における作用エネルギーについての提案がされNPとして進めることになった。

・Artur Schönlein(ドイツ)コンベナーからISO 4892-2の照射/降雨サイクルについてリングテストの提案があ

り、興味のあるメンバが参加することになった。

・ISO/TR 19032(ポリエチレンリファレンス試験片)は、紺野委員からポリエチレンリファレンス試験片が入手不可なため廃止の提案がされたが、来年改訂の作業を行いその結果で決定する。

(4) SC6(耐候性)/WG3(諸暴露)

開催日:2017年9月19日

参加国:アメリカ・ドイツ・チェコ・イギリス・フランス・インド・中国・韓国・日本 9ヶ国 22名

・ISO/CD19721(人工芝の耐候性試験)のコメントに対して議論され、追加された試験結果の説明が行われた。ただし、CDに対してのobservationが出ていないことなどから、再度関係する資料をWG内で回送する。本規格の開発期限が近付いているため、一旦キャンセルし、再度新規案件としてスタートする。

Gray Cornell(アメリカ)委員から耐候試験でのスプレー水量の最低量について提案があり、NPとして進めることになった。



TC61 会議風景

次回は、2018年9月24日～28日、日本・大宮で開催予定。

< ISO 規格発行までの手順 >		
予備段階	PWI	Preliminary Work Item (Project)
提案段階	NP	New Proposal for a work item
作成段階	WD	Working Draft
委員会段階	CD	Committee Draft
照会段階	DIS	Draft International Standard
承認段階	FDIS	Final Draft International Standard
発行段階	IS	International Standard

ISO/TC38(繊維)/SC1(染色堅ろう度)アメリカ・ニューオリンズ国際会議

2017年10月10日～13日にアメリカ・ニューオリンズにて開催され、当社喜多英雄と共に出席した。当社に関するSC1の審議について報告する。

開催日:2017年10月11日

参加国:イギリス・ドイツ・アメリカ・フランス・日本 5ヶ国 27名

- (1) WG1(耐光) ISO 105-B06(高温下の耐光試験) NPの投票を行う。その後RRTを行う予定。
- (2) WG5(添付白布) ISO 105 Fシリーズ(添付白布) マスター染色布を管理する担当国は、2017年11月末までにSC1セクレタリに入手が可能かを報告する。日本担当はISO 105-F06(絹)。
- (3) WG7(測色) ISO 105-A03(グレースケール) 改正NP(許容差変更)が承認された場合WG7にて作業する。
- (4) WG13(その他) 当社喜多が、摩擦試験機Ⅱ形(学振形)法(JIS L 0849)のプレゼンテーションを行った。試験法及びクロックメーター(ISO 105-X12)との比較共同試験結果(学振134委員会で実施)を紹介した。今回発表のデータと、比較共同試験の結果を1機関で再評価した結果を、WG13内で回送して議論することになった。
- (5) SC1 ISOブルースケールのL4について入手性、品質面、確認の方法で議論があった。



TC38 会議風景